

米政権、完全非核化より資源開発重視

2019/2/27

豊富なレアアース等の資源、アジア成長圏の好立地

ベトナムの首都ハノイで2月27-28日に開催される2度目の米朝首脳会談の焦点は、北朝鮮の核開発の実態把握と非核化に向けた具体的な行動に集約される。だが、金正恩政権は豊溪里、東倉里、寧辺の破棄に応じ、それが完全非核化（CVID）に繋がるなら米政権は「北朝鮮の未来を約束」としCVIDよりレアメタル等200種の豊富な鉱物資源と好立地の北朝鮮との国交正常化を急ぎそうだ。

埋蔵量マグネサイト世界2位・モリブデン同4位

ある外交筋が「トランプ政権は、完全非核化（CVID）より鉱物だけで200種類、埋蔵量世界2位のマグネサイト、黒鉛（世界3位）、モリブデン（世界4位）等豊富な地下資源の開発を狙い、国交正常化を優先するのではないかと打ち明ける。

すでに、金正恩政権は、爆破した豊溪里（ブンゲリ）の核実験場、解体に入った東倉里（トンチャンリ）の大陸間弾道ミサイル（ICBM）基地への査察、核開発の心臓部である寧辺（ニョンビョン）の施設の凍結、破棄に応じており、それが完全な非核化に繋がるならトランプ政権は「北朝鮮の未来を約束する」と言明している。

しかも、トランプ大統領は昨年6月、シンガポールでの初の米朝首脳会談を前に北朝鮮について、「北朝鮮には驚くべき潜在力があり、いつか、経済的にも、財政的にも偉大な国となろう。そう遠くない将来、韓国のようになるだろう」と述べている。

アジア最貧国の北朝鮮が世界9位の経済国である韓国に近い将来、肩を並べるとは信じ難いが、その根拠となっているのが、北朝鮮が有する豊富な地下資源であり、アジア成長圏に隣接する立地条件であることは言を待たない。

米地質調査所（USGS）や韓国の調査によれば、北朝鮮には鉱物だけで200種類、埋蔵量世界10位に入る鉱物だけでも、マグネサイト（世界2位）、黒鉛（世界3位）、モリブデン（世界4位）を含め7種類もある。マグネサイトはアルミニウムの添加剤や耐火材に使われ、推定埋蔵量は60億トン規模とされる。

さらに、推定埋蔵量25万トンのタングステン（タングステン）は埋蔵量トップの中国（200万トン）の1割に相当、鉛や亜鉛、コバルトも存在する。とりわけ、注目されるのがハイブリッド自動車や電気自動車のモーターなどハイテク製品に欠かせないレアアースである。

「蓄電池や発光ダイオード（LED）など電子製品を作る際に使われるレアアースの全世界の埋蔵量は1億5000万トンとされ、うち中国が9100万トン

占める」（同外交筋）。

最大の輸出国である中国が希少価値の高いレアアースを戦略資源と位置付けて以来、近年、価格は急騰している。北朝鮮の埋蔵量については、13年12月に中国『証券時報網』が「北朝鮮で大規模なレアアース鉱床発見か」。潜在価値は数兆ドル」と報じて関係者を驚愕させた。

同紙によれば、埋蔵量は2億トンとされ、場所は平安北道の定州とされる。なお、この場所は3年前に出版されたトム・克蘭シーの「米朝開戦」にも記され、数兆ドルと推定されていた。

一方、国際ファンド「SRE ミネラルズ社」が参入を企図し、ダミー会社を英領バージン諸島に設立し、今後25年間の開発独占権を手にし、14年から探索を開始する予定だったが、国連安保理の制裁が足枷となってストップしている。

著名投資家ジム・ロジャーズ氏は「日経新聞」（2月24日付）インタビューで「現在どんな投資機会に注目していますか」との質問に、「今後10年、20年は朝鮮半島に熱い視線が注がれるだろう。韓国の米軍基地をどうするかが問題で、タイミングも難しいが、いずれ韓国と統合して北朝鮮の門戸は開かれるとみる。中国やロシアが入ってくるのは、北朝鮮が魅力的な市場だからであり、天然資源が豊富な上、教育レベルが高く低賃金な人材も多く確保できる」と答えている。

「第2のシンガポール」を目指す北朝鮮

「北朝鮮はアジア太平洋の成長圏に隣接し、立地条件に恵まれている。勤勉な労働力があり、地下には資源がある。それらを活用するならば、北朝鮮は経済を飛躍的に伸ばせる」と。

昨年9月、安倍首相は国連演説で北朝鮮の好立地に豊富な資源による潜在成長の高さに言及している。

確かに、北朝鮮から東西南北を見渡せば、東は日本海を挟み世界3位の経済国・日本がに面し、西は世界2位の経済大国である中国と国境を接し、南は38度線を挟み、世界9位の韓国に繋がり、北は大国ロシアを背にしている。

好立地をいかし北朝鮮が「第2のシンガポール」を目指す所以である。

一方、同外交筋は、「北朝鮮は保有核を含め完全放棄の可能性は低く、すでに米政権は非核化アプローチを転換している」と打ち明ける。

実際、米国は従来の「完全かつ検証可能で不可逆的な非核化」（CVID）に代わり、「最終的で完全に検証された非核化」（FFVD）という表現を使い始め、

全容解明より北朝鮮が廃棄した施設検証を優先していると懸念される。

北朝鮮は移動式ミサイル発射施設も保有し、一部の固定基地廃棄は「単なるパフォーマンスにすぎない」と指摘される。

すでに、外交専門誌「ディプロマット」電子版（18年7月号）は、「北朝鮮が平壤郊外のカンソンと呼ばれる核施設で寧辺の2倍の処理能力があるウラン濃縮施設を建設し、03年から稼働させていた可能性が高い」と報じ、米紙ワシントンポスト（WP）も今春、「北朝鮮がカンソンという場所に秘密の濃縮施設を持っている」と報じた。

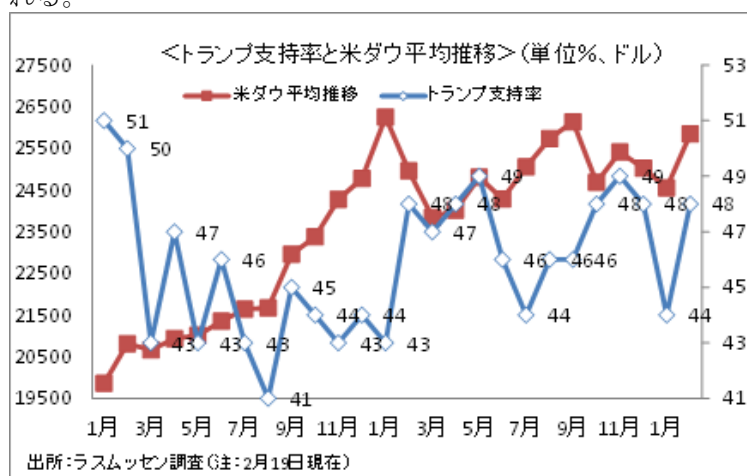
米CSIS（戦略国際問題研究所）は昨年11月以降、複数回にわたり北朝鮮内ミサイル基地の存在を発表、全体で15-20カ所のミサイル基地が稼働中とし、「サッカンモル」、「新五里（シノリ）」、「サンナムニ」の3カ所の設備、配備ミサイル等を突き止めた。

北朝鮮は2003年1月に核拡散防止条約（NPT）脱退を表明、施設はその前後に稼働が始まったとされる。

「ディプロマット」によれば、千里馬の施設は壁に囲まれた広大な敷地内にあり、重要な軍事施設に散見される記念碑等も確認されている。主要な建物は長さ50メートル、幅110メートル。17-18年の衛星写真によれば、雪が多い冬場でも屋根に積雪がなく、濃縮作業などで熱が生じているという。

一方、韓国大統領府の報道官が25日の会見で27-28日にハノイで開かれる米朝首脳会談でトランプ大統領と北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）委員長が朝鮮戦争の終戦宣言で合意する可能性がある」と指摘した。

法的拘束力のない政治合意の「終戦宣言」の主体は米国と南北3者、これに中国を加えた4者というのが韓国政府の立場だったが、金報道官は終戦宣言を「北朝鮮から非核化を引き出す政治的な宣言」と説明、「終戦宣言」は米朝だけでも十分で、韓国政府は歓迎する」と述べた。2度目の米朝首脳会談はすでに北朝鮮の完全非核化が担保されず、米側が見返りを与える流れに傾きつつあるようだ。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。